

知していきたい。

問 臥龍山荘については、大洲歴史文会が指定管理者として管理運営を行っているが、この記念事業について大洲歴史文会との連携は図られているのか。

答 大洲歴史文会の皆さんは、観光客の皆様と一番身近に接している立場にあることから、今回お招きする矢ヶ崎善太郎准教授の専門的な知見の説明を受け、今以上に理解を深めてもらうことで、訪れる観光客の皆様に対して、より上質な「おもてなし」が期待できるものと考えており、記念事業開催に当たっては、今後、関係機関と連携を図りながら進めていきたい。

◆体育施設管理運営費について
説明 大成体育館の防水修繕工事を実施するもの。
問 大成体育館については、地域での利用もあり早急な修繕が必要であると思うが、そのほかの閉校となっている体育施設は、今後どのような方針で進めていくのか。

旧大成小学校体育館



答 閉校施設の体育館は現在15施設あり、現時点では、現在策定中の公共施設等総合管理計画に基づいて、総務省が示す試算で建て替え時の基準となる建築後60年を目標に、それまでは利用に支障がないよう修繕や維持管理を継続していくこととなる。その後については、施設が所在する地域の人口や利用状況を踏まえた上で、施設の統合化、複合化を念頭に置いて、今後のあり方について検討することとしている。ただ、

閉校施設の体育館は避難所として指定されていることから、避難所として、地域住民を収容できる代替施設がない場合については、地域全体として必要な施設の機能、規模といったことを含めて検討していく必要があると考えている。

◆感染症予防事業について
説明 予防接種法施行令の一部改正に伴い、定期予防接種として乳児を対象としたB型肝炎が追加されたため実施するもの。

問 接種率の見込みと対応方法について。

答 市では年間約350人の子供が生まれていく。その出生数から思案し、100%を目標としているが疾病等により接種できないこともあることから95%の接種率を見込んでいく。そのために、新生児訪問、母子健康手帳、チャイルドノート交付時などあらゆる機会において保健師による予防接種の説明を行い、また個人通知も行う予定である。

問 定期予防接種全体の接種率について。

答 乳幼児を対象とした定期予防接種は、ほぼ100%の接種率となっている。また、学童を対象とした三種混合が83%、日本脳炎が58%であり、高齢者を対象としたインフルエンザは66%、肺炎球菌については42%の接種率になっている。

意見 特に高齢者を対象とした定期予防接種については、低い状況にあるため、接種率の向上に向けて、さらなる周知徹底を図っていただきたい。

産業建設委員会

委員長 福積章男

◆農地中間管理機構事業について

説明 農地の貸借事業を拡充し、農地を扱う農地中間管理機構が、担い手への農地集積を支援するもの。

問 協力は毎年交付されることとなるのか。

答 協力は毎年交付されることとなる。1回限りの交付であり、農地の貸借締結が成立した後に交付されるものである。

問 農地の現在の集積状況について。

答 現在の集積状況については、国営パイロットを中心を集積を進めているところであり、約10ヘクタールとなっている。今後においても順次集積を進め、当面は、あと8ヘクタールから10ヘクタールの貸借契約を目指している。

◆新池防災対策工事費について

説明 八多喜地区にある農業用ため池の新池について、その下流に住宅等が多く存在することから、安全対策のため、余水吐改修を実施し、ため池の水位を約2.5メートル下げ、堤体の安定性の向上を図るもの。

問 市内には多数のため池が存在するが、市が管理しているため池は、どのくらいあるのか。

答 市内には112カ所のため池があり、ため池のものも存在する。しかし、管理については、基本的に水利権をもってそれぞれ水利組合である。